

真砂小学校区コミ協だより

第28号

令和2年3月15日

発行:真砂小学校区コミュニティ協議会

編集:真砂小学校区コミュニティ協議会広報部会

- 【一面、最終面】 コミ協事業報告：1頁：①自治会長会議報告、②人材センター設立事業の取り組み
6頁：③第5回真砂文化祭、④イルミネーション事業、⑤編集後記
- 【差し込みページ】各部会事業報告：3頁：①生活環境部会、②青少年健全育成部会、③スポーツ部会
4頁：④福祉部会、⑤交通安全部会、⑥防災部会、⑦文化部会
- 【見開きページ】自治会投稿記事：2頁：①有明町自治会、②真砂四丁目自治会
5頁：③松海が丘第三自治会、④日和ヶ丘自治会

自治会長会議開催

コミュニティ協議会を構成する各自治会の代表として、自治会長から適宜お集まりいただいて、「自治会長会」を開催し、コミ協の役員会の決定事項に対するご意見や、事業の伝達・協力依頼など、その進め方の意見をいただく重要な場となっています。

第一回会議・7月4日(木)

高田新会長から今年度コミ協事業の内容・時期等確認、「山形県沖を震源とする地震」への各自治会の対応についてなどが議題となりました。

第二回会議・9月21日(土)

第5回真砂文化祭実施について概要説明、協力依頼、意見交換などを行いました。

第三回会議・12月19日(木)

①第5回真砂文化祭の報告と評価では、参加者を増やす方策を考えながら継続していくことにしました。
②地区社協については「真砂地区社会福祉協議会(仮称)」として別組織で設立することにしました。



社会福祉協議会(略称社協)は

従来各区で一つの組織でしたが市の方針で、地区社協がコミ協単位の組織として「住民がより主体的になって『住みよいまちづくり』が出来る様にする事」を目的として設立されることになりました。
③明倫短期大学との「パートナーシップ協定」締結については、コミ協事業推進にあたり相互協力関係を維持・発展させるため、提案通り締結する事を決め次の定期総会に提案される事となりました。



真砂人材センター設立事業の取り組み(現状報告)

少子・高齢化社会がすすむなか、地域での助け合いが求められている。一方、地域に埋もれた人材の発掘により、地域の活力の醸成が求められていることから、「真砂人材センター」の設立について、平成28年度から取り組んでいます。

平成29年に設立についての行政、社協、学校関係者との意見交換会を開催し、当面学校支援、芸術文化等の人材発掘に取り組むという方向を示しました。

現在、「地域内の隠れた人材発掘、その登録と連携活動」という方向での取組が行われており、平成30年度からは明倫短期大学と連携して「学生と地域で作るワークショップ」(他団体とも共催の事業)を開催しています。

世代間交流などをおして相互に刺激を受けることが有効ではないかとの考えです。

今年度は、「この地域でのワクワクを考えよう」をテーマにワークショップを行い、その中の一つに明倫短期大学を会場に「カフェテラス」を開いてみよう!という案件が数グループから提案されました。その他紹介できないほどの「ワクワク」が生まれました。地域活動や真砂文化祭の時などに、その案が実現し、もつと地域の大勢の方々から参加してほしいと思います。

この事業は新潟市地域活動補助金対象事業として取り組んでいます。



グループ別検討会



各グループ発表会

「夕日を楽しむ会」に70人超

会長 五十嵐 武

有明町自治会の紹介

有明町自治会は約140世帯と小規模で、静かで平和な自治会です。最大の悩みは住民の高齢化で、あと15年ぐらいい経つと現在の住民のほぼ半分が入れ替わったり、空き家になったりすることが想定されます。さらに、高齢世帯と若い世帯とで2極化されてきて、近所付き合いも比較的薄く、自治会活動もあまり活発とは言えません。会長等の役員をはじめ、コミ協各部会員まで含め総勢33名が、大なり小なり自治会活動にかかわっています。これらの方々の選出にいつも苦労しているのが現状です。



自治会活動の中で春と秋に1回ずつ総会がかりで実施する町内一斉清掃を別にすれば、最も参加者が多いのが毎年7月末に開く「夕日を楽しむ会」です。近くの浜茶屋の一区画を貸し切り、子供から高齢者まで70人以上が参加して楽しい一時を過ごします。育成部の企画で花火、スイカ割り、宝探しなど子供たちが喜びそうなメニューがたくさんあり、子に引かれて親も、という図式です。日頃疎遠になりがちな近所との会話が弾む良い機会になっています。

また、「自分の命は自分で守る」という意識が浸透したこともあり、毎年、有明福祉会館で30人以上が参加し、区役所と消防署の協力を得て、消火器やAEDの取り扱い、防災講話等、各種防災カリキュラムを繰り返し研修しています。

昨秋は初めての試みでしたが「防災研修と日帰り旅行」を一緒にした一つの行事として、小千谷市の震災ミュージアム「そなえ館」と「錦鯉の里」へ行ってきました。借り上げバスの定員いっぱい参加者で、「そなえ館」では中越地震時の揺れを体感し、避難所生活での苦労を聞き、さらには直前にあった台風15号による千葉県の長期停電、断水についての話もあり、日頃の備えの必要性を学習してきました。今後は、仕事をしている若い人にも積極的に自治会活動に参加してもらえよう、全員参加型の行事に知恵を出していきたいと考えています。

「わいわいがやがやの

大にぎわいは、我が自治会」

会長 田浦 智子

松海が丘第三自治会の紹介

我が自治会は、令和元年現在、215世帯からなる自治会です。越後線寺尾駅から日本海側、徒歩25分程にあり、周辺には綺麗に整備された砂防林「松海の森」がある閑静な住宅街です。住み良い環境づくり、住民相互の親睦を目的に、夏祭り、敬老祝い、一斉清掃、資源回収、防災訓練、各種イベントなど幅広く活動しております。今年度の活動の様子を二つご紹介します。

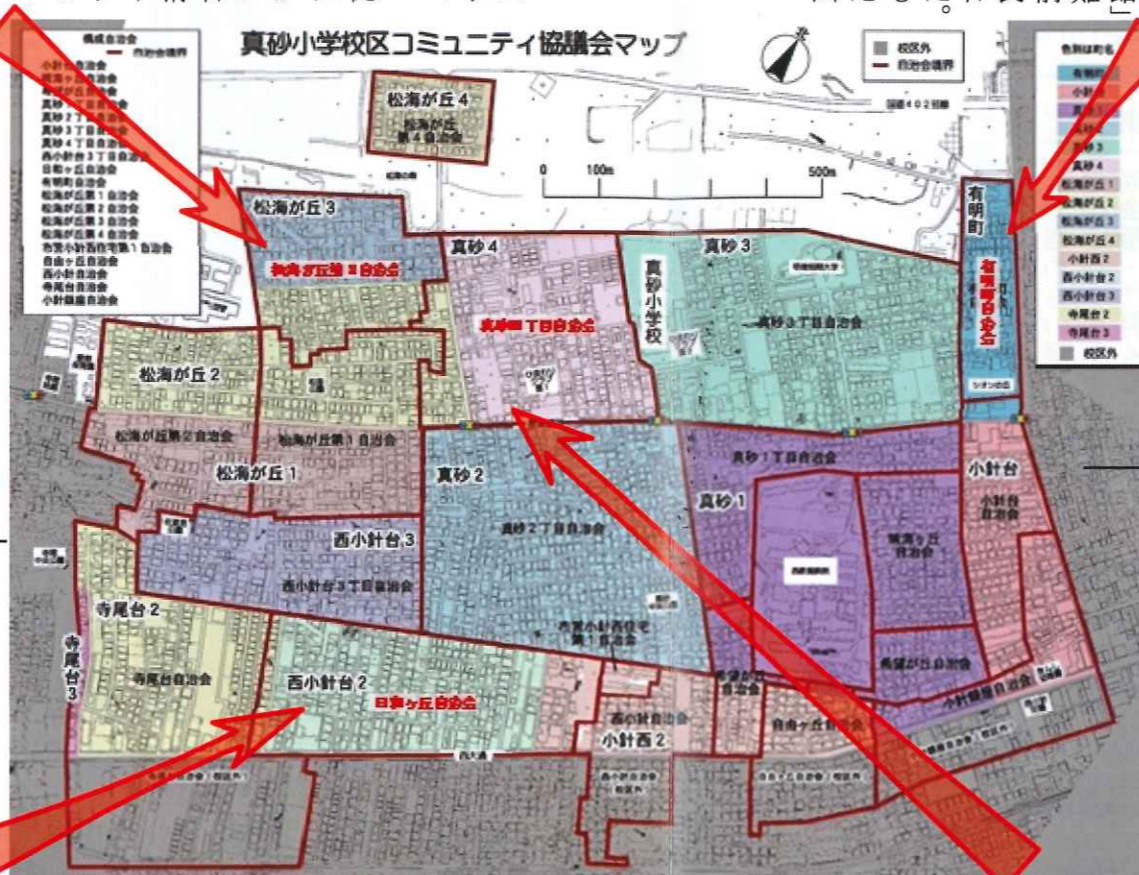
①第十六回夏祭り

8月下旬に「第十六回夏祭り」を開催しました。近隣の自治会の皆様のご指導を受けて、自治会役員総力を挙げ6月から計画に入り、係りの確認。3ヶ月間の頑張りでした。今年「こどもみこし」が初登場です。約50人の子供と大人でワッショイの大きい声を出して嬉しい限りです。総勢250名の参加でした。

出店も、育成部の「こどものお店」カキ氷、焼き鳥、焼きそば、豚汁、枝豆、飲物のお店、ビンゴ大会、スイカ割り、盆踊り等盛り沢山の行事です。このお祭りは約60人のスタッフに支えられております。初めての方もベテランも力合わせて、わいわいがやがやで、子供も大人も大賑わいでした。

②防災訓練

令和元年9月29日(日)松海公園で防災訓練を行いました。朝から雨模様。自主防災会メンバー50人の底力で、テント大・小合わせて4張りを1時間程かけて張り上げましたが、なんと大雨。ここで終了です。課題の一つであるテント張りを体験活動するのみにりましたが、これも大事な訓練になりました。防災力強化に頼もしい自治会です。



一、自治会の略史と記念誌の発行

会長 安宅 光之

真砂四丁目自治会の紹介

①自治会の略史
この地は1949年11月4日「五十嵐浜開拓地」として11名の入植から始まりました。真砂町の地名は1960年1月11日、内野町が新潟市に合併の際、住民が自主的に決めました。新潟地震後急速に新興住宅地として発展。1977年3月、市の住居表示変更に伴い、真砂町は一〜四丁目に分かれ、当自治会は四丁目自治会となりました。

②記念誌の発行

2015年6月28日午前10時より一富会館にて「自治会創立55周年記念、真砂四丁目自治会の歴史」の発行記念祝賀会が開催されました。この記念誌は国策として満蒙開拓団となり、敗戦後この地に入植となった方々の歴史的背景を知ると共に、不毛の地で不屈な戦いをもって私達に残した地である事を知ってもらい、次代に受け継がれることを願って発行し、全世界に配布しました。

二、2007年に自治会の運営と活動を大きく変える

①役員選出方法を透明化

役員選出規定を作り、役員改選期の2月に立候補を全自治会員に公示し、定期総会時に選挙で選出しています。現在は新たな工夫を検討中。

②会員の意見・要望を汲み上げるため全班会を開催

毎年10月に班会を開催。出された多様な要望や意見を諸活動に活かしています。

③各種の募金等は自治会員個々の自主的な判断に

大阪高裁2007年8月24日の判決「募金等の自治会からの一括支払いは、事実上の強制で思想、信条の自由を侵害する」により募金等は個人の自主判断としました。

④新たに広報誌を発行

「真砂四丁目だより」を年度4回発行し、事業や運営等の内容を広報しています。

⑤2008年3月自治会独自の防災組織立ち上げ

自治会とは別に「真砂四丁目自治会防災会」を立ち上げ、訓練を実施。今年度で12回目となりました。

⑥特筆すべき保安林整備の活動

当自治会の海側は保安林だが整備されず荒れ放題のため、2007年9月自治会として「保安林の整備」を県議会に請願。10月に採択され、その後整備が進みました。この活動はコミ協に引き継がれています。

一 声かけて明るい町内

高齢者にやさしい街づくり

会長 中橋 豊

日和ヶ丘自治会の紹介

私たちの自治会は西区西小針台2丁目(小針西・寺尾台一部含む)に位置しており、世帯数315と大きな範囲となっております。それだけに隅々までキメ細かな活動が必要となっております。自治会を5つのブロックに分け、班数1班、24班まで(班長24名)、通年にわたり活動をしてまいります。何か問題が生じた場合は、会員は班長へ、班長からブロック長(副会長兼務)へと連絡をして解決策を講じております。年間を通しての交流と親睦を深めるため、各種行事を催しております。

◎夏には七夕会と称し(敬老会から移行)実施(毎年25名程度の参加者)。
◎秋には日帰り旅行(毎年25名ぐら)を実施して、ゆつくり温泉に入り、食事をしながら談笑しております。しかし年々参加者も減少しており、今後の検討課題と言わざるを得ない状況です。

◎若い婦人層による児童の登校・下校での交通安全の誘導など、今年に入って「ながら隊」を結成し、学童・児童の身を守る対策など講じております。(ながら隊12名、応募制)

◎一番力点を置いているのは自主防災会です。近年に日本中で大きな地震が発生しております。年2回自主防災会を開き、防災委員会を主体として市から講師を招き、体験や研修会を開催し、万が一に備えた対応など講習会で勉強会を催しております。毎年参加者も多く、60名から70名参加となっております。また、今年度より体制を少し変えて、震度5以上の場合は各ブロック長、班長、指示をし、各班での状況を把握するとともに、防災委員長へ

会長へと緊急連絡体制を強化することを協議しました。当自治会も高齢化が進んでおり、「高齢者に優しい街づくり」を目指して取り組んでおります。



生活環境部会

生活環境問題の勉強と

活動交流会を開催

令和元年11月13日(水)夜7時より真砂会館にて表題の集会在開催されました。

集会の目的は、地域の生活環境問題について、各自治会長さんを始め役員が行政の取り組みや方針を良く知り、地域住民の要望に応えながら環境整備の活動に役立てることです。

ごみ問題について

集会では最初に区民生活課の田村係長よりごみ問題についての市の対応と、特に注意が必要な事項について説明をうけました。

★プラごみとは

★粗大ゴミと家電製品

★地域での清掃活動と補助金

★地域のゴミ集積所に公道は利用できないか

★ハクビシン等の動物への対応

★事業用ゴミを燃えるゴミに出している場合の対応

などの説明、質問や意見がありました。

★公園と道路について

次に区建設課田中係長より「公園と道路維持について、カーブミラー」の説明がありました。

西区には公園が311(全市で700)あり、他の区と比較してダントツに多い。

そこに公園の清掃等の団体(愛護会)が293あり、維持管理に協力してもらっていること。

道路についても西区は他の区と比較して総延長で1.1kmで西蒲区について2番目。

また道路は社会情勢(通学路・自転車利用帯・少子高齢化等)や季節(台風、雪、雨)と強い関係があること。

側溝や公園の清掃で出る土嚢等は4〜7月は毎週、8月から月2回、回収している。

カーブミラーは基本として公道(市道)から公道に通ずる部分に設置を基本にしている。

ミラーは東京都町田市の基準が参考になるので、この基準を生かして実施している。

質疑は

★道路陥没の場合の対応

★私道を公道とする場合の基準

★街路樹の剪定

★道路補修の基準 等々でした。

その後、根本生活環境部会長より、上新栄町保安林のうち真砂3〜4丁目海側(俗称、真砂草原)の整備について、取り組みを開始して12年目で地権者の同意が得られた部分から、整地と黒松等の植栽をすすめていることが報告されました。

この集会には11自治会より21名が参加しました。

青少年健全育成部会

真砂小学校文化祭「フレイゾン」

日時 令和元年10月26日(土)

場所 真砂小学校 体育館

内容 工作コーナー(ビーズアクセサリ、アートバルーン、コマ、コースター、飛行機)等、カプラ、長縄跳び、フリースロー大会、昔遊び(各種コマ、お手玉、おはじき等)

参加人数 約300名(児童、教職員、保護者、地域の方々)

共催 真砂小学校PTA、真砂小学校おやじの会

工作コーナーは、昨年に引き続きアートバルーンが人気で、昨年よりも数量を増やし十分な量で遊んでもらえた。

PTAとおやじの会の方々は、例年の長縄跳びに加えて、バスケットボールのフリースロー大会を開催。

「子供の遊び相手」を主な活動とした為、担当の方々の負担感も少なく、主催者も含めて、保護者、地域の方、子供達との交流を深めることができたと感じている。

製作が難しい工作もあつたので、今回は子供だけでも作れるというポイントで選定したい。



スポーツ部会

真砂・松海が丘野球連合

各自治会の有志により編成された6チーム(登録者数100名)で実施。

○リーグ戦(5月初旬〜9月末)

優勝 || 真砂一丁目、準優勝 || 松海が丘第一

MVP || 関哲也、敢闘賞 || 佐野栄紀

○日報・信金杯

優勝 || 真砂二丁目、準優勝 || 松海が丘第一

MVP || 若槻満、敢闘賞 || 花輪幸司

第7回グラントゴルフ大会

令和元年9月22日

団体の部

優勝 || 有明ドリーム

準優勝 || 健康卓球Bチーム

個人の部

優勝 || 小林正夫(有明町)

準優勝 || 伊藤光昭(有明町)

第6回真砂コミ協杯ゴルフ大会

令和元年10月24日

団体の部

優勝 || 松海が丘第二Cチーム

(笠谷・馬目・本多・藤田)

準優勝 || 西小針台Bチーム

(今泉・堀内・松原・富岡)

個人の部

優勝 || 今泉誠衛(西小針台B)

準優勝 || 石井登(西小針台A)

3位 || 本多徳雄(松海が丘第二C)

スポーツ教室開催

講師に、田村利恵子氏(フィット

ネスインストラクター)を迎えて令

和2年1月29日・2月5、12、26

日の4回にわたり、ストレッチ・

リズム体操を行い、後半はピンポ

ンで汗を流した。



福祉部会

世代交流の集い 「こどもたちと遊び隊」

夏休み中だった令和元年8月23日(金)の午後、真砂会館は平成生まれの小学生74人の歓声で沸き返った。お相手したのは、親世代より祖父母世代が圧倒的に多い昭和生まれの40人。

前半は、こども文化育成会の方の皆さんの指導でものづくり活動。古新聞紙を折ったり丸めたり、ひもや両面テープでつなげたりして、思い思いのオブジェ作り。最後には水で溶いた石膏を掛けてもらい、本人にしか分からないのかも知れない「傑作」を仕上げた。

後半はお手玉、折り紙、あやとり、将棋など、希望する7種目に分かれての昔遊び。高齢者はここでこそ目立ちたかったが、主人公はあくまで子どもたちという種目が多かった。



作り上げた「傑作」



昔遊び「あやとり」

真砂うきうき元気塾

「うきうき元気に生きましよう」

令和元年9月14日(土)高齢者の健康増進を目的として、坂井輪コミュニティセンターで開催。参加者95名。

①落語 三流亭楽々「笑って楽しく安全落語」鶴の恩返し↓驚(詐欺)のたまし

②健康増進講座 「新潟市発健康行き」(西区役所健康福祉課 岩野保健師)

・「行くこう健康診断」 市民の平均寿命は全国平均よりやや長い、「健康でない期間」もやや長い

・「はじめよう減塩」 市民の食塩摂取量は「目標8g」に対し「10.1g」

・「つづけよう運動」 車移動が多いため意識しないと運動量を増やす事ができない。「65歳以上の国の平均歩数7,000歩」に対し「市民の男性歩数6,231歩」

③男声コーラス(しなのグリークラブ) コーラス鑑賞

の後に指導を受けながら歌った。



三流亭楽々師匠



岩野保健師

交通安全・防犯部会

部会の活動について

交通安全・防犯部会は、白杵部会長(西小針台3丁目)以下12名で活動しており、主に、子供たちの通学の見守りと地域の防犯パトロールを行う。

防犯パトロールは令和元年7月・小針浜・寺尾浜、8月・小針浜(夕日コンサート)、9月・寺尾中央公園(坂井輪祭り)、10月・公園遊具点検、12月・五十嵐中学校餅つき大会の年5回行った。

また、月・水・金の午後3時から2人で青色パトロールを行っている。

10月26日に行われた防犯パトロールに同行したので、その様子を報告する。



当日は雨模様だったが、奇跡的にも午後3時頃から青空になった。協議会事務所に集合。午後4時に白杵部会長の他、笠谷氏、桃井氏、坪井氏の3名とパトロールに出発。

最初は真砂3丁目の「真砂公園」に向う。ここは小さな公園で、全員でブランコと滑り台をチェック。全体を目視した後、押したり引いたりして緩みがないかを確認。

次に向かった松海が丘2丁目の「松海公園」は広く、遊具がいくつもあり子供達が大勢遊んでいた。その次は松海が丘1丁目の「佐渡見公園」。傾斜地にあり子供たちに人気がある。ブランコとジャングルジムは問題なし。傾斜を利用した滑り台の下にある砂場に砂はなく、子供たちが安全に滑るためには砂を敷くのが望ましい。

最後は真砂2丁目の「真砂中央公園」。この公園も広く子供たちが遊ぶのに最適。大きな遊具がある。4ヶ所の公園を回り遊具等の点検を行い、大きな問題はなかった。

防災部会

防災研修会

令和元年6月18日に新潟県下越沖で地震が発生し、津波避難行動をとる事案が現実になる。その際、新潟市の対応や避難情報の出し方により混乱が発生した。当地区には土砂災害危険指定区域も有ることから、10月5日(土)・6日(日)に災害時の避難活動・避難所の運営方法について各自自治会との統一化を図る研修を行った。

災害地での職務経験がある当コミ協笠原事務局長から小千谷の防災研修施設での研修、旧山古志村での体験研修や避難時の状況・問題点などの説明をうけた。

参加した各自自治会長・防災担当者より住民の防災・備え・避難行動に役立ててもらうこととした。



文化部会

写真教室と撮影会開催

令和元年9月29日(日) 会場 明倫短期大学講堂 講師に日本写真講師会「認定講師田中栄司氏」を招いて写真撮影に関する注意事項等の講義を受けた後、モデルの「あやかさん」(小学5年生)を迎えて撮影会を始めた。

当日はあいにくの雨で最初に講義室内での撮影を行い、次に講堂に移動し撮影。途中で「あやかさん」の英語でのスピーチがあり、和やかな雰囲気撮影が進んだ。最後に雨が小降りになったので外の入り口のロータリーで撮影を行った。参加者は12名で全員の作品は第五回真砂文化祭で展示された。



第五回真砂文化祭開かれる

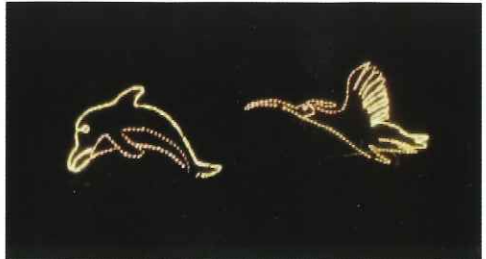
令和元年10月19日(土)・20日(日)開催場所 明倫短期大学5号館講堂、他
 初日は作品展のみで開催。写真13点、水彩画3点、彫刻2点、他に自然石、精密鑄造、木版画、パソコン作品、手芸、折り紙、刺繍、絵手紙、陶芸、工芸、書道、油絵、デッサン、等84点の展示が行われ多くの方が観覧していた。
 二日目はステージ発表と作品展を行い10時より明倫短大の THE YUBISACK の発表から始まり真砂民謡会の(相馬盆歌・花笠おどり)、男声コーラス(しなのグリークラブ) 合唱で昼食休憩。
 午後よりギターとピアノセッション(遠藤三雄氏・過足薫氏)、真砂ミュージッククラブ(MMC)演奏、2回目の真砂民謡会(四季の新津・新潟小唄)、国際空手道連盟極真会館総本部新潟中央道場の皆さんの演舞、最後にもう一度明倫短大の THE YUBISACK の漫才で閉会しました。

今回初めて、晴海ヶ丘地域の会、小針台地域の会、更生慈仁会、真砂コミ協のフリーマーケット等の出店があり、大勢の方が買い物を楽しんでいた。
 作品展の会場でモニターによる真砂コミ協とはという映像を流し好評だった。また「休憩所等の設置をして来場者にお茶等のサービスをしたら」とのお話も伺いました。
 スタッフ、来場者含めて300名ほどの参加があり成功裏に終わりました。



イルミネーション

平成27年10月16日に点灯式を行ってから5年目、定着した感のあるコミ協事業です。
 真砂小学校のグラウンド(校舎を背に海側)のネットに日本海のシンボルとして「イルカ」、新潟のシンボルとして「トキ」の姿。今年も星が瞬くころになるとその姿を浮かび上がらせていました。



少子高齢化が進み、子供たちも進学などを契機としてこの地を離れることも少なくない中、みんなの「夢と心に残る思い出を」ということで取り組み始めました。
 点灯時期は4月から12月、時間は18時(季節によって変わります)からです。
 イルカ、トキの組み立て、大人も子供も協力してつくりました。
 心に残る、良い思い出になると思います。
 (新潟市地域運営助成金対象事業)

編集後記

新天皇の即位、新元号の発足、ラグビーワールドカップベスト8、マラソン競技の札幌変更、新型コロナウイルス感染症拡大等々忙しい一年でした。コミ協も新三役発足と新年度へ向かっています。今後ともコミ協発展のため皆様の活動状況などの投稿をお願いします。